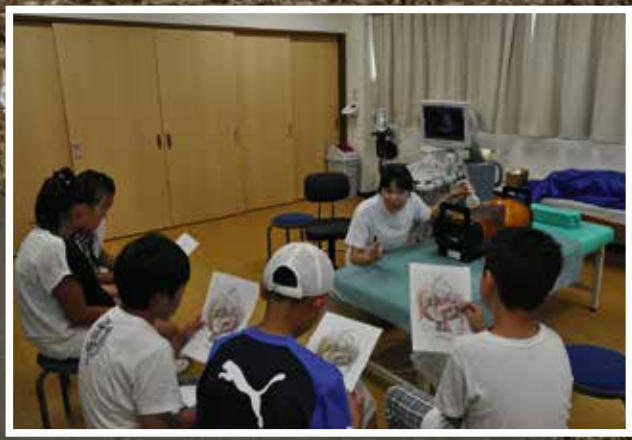
平成27年度
秋田大学地域創生センター年報



Center for Regional Development

目次　contents

秋田大学地域創生センターの概要 2

センター長あいさつ
秋田大学地域創生センター　センター長　川東　雅樹 3

平成 27 年度の活動実績

１．地域協働部門

１．１　公開講座..... 7
１．２　自治体との連携.....9
１．３　大学見学受入.....12
１．４　地域創生センター主催事業.....20

２．地域防災部門

２．１　秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究.....26
２．２　防災について地域で活動できる人材の育成.....29
２．３　県および市町村への防災施策に関する指導・助言.....35

参考資料

地域創生センター運営委員・地域創生課職員一覧.....39
平成 27 年度社会貢献事業ポスター（一部）.....40

横手分校，北秋田分校，男鹿なまはげ分校，ＣＯＣ及びＣＯＣ＋の各事業報告は別刷り報告書となっております。個別に配布ご希望の方は下記までご連絡ください。

＜秋田大学分校＞
横手分校，北秋田分校，男鹿なまはげ分校
秋田大学地方創生・研究推進課　018-889-2270
＜地（知）の拠点推進本部＞
ＣＯＣ事業　秋田大学地（知）の拠点推進本部ＣＯＣ事務局　018-889-3173
ＣＯＣ＋事業　秋田大学地（知）の拠点推進本部ＣＯＣ＋事務局　018-889-3246

※組織の見直し･再編に伴い，平成 28 年 4 月より地域創生センターは地方創生センターへ，地域創生課は地方創生・研究推進課へ，それぞれ変更しております。

地域創生センター概要

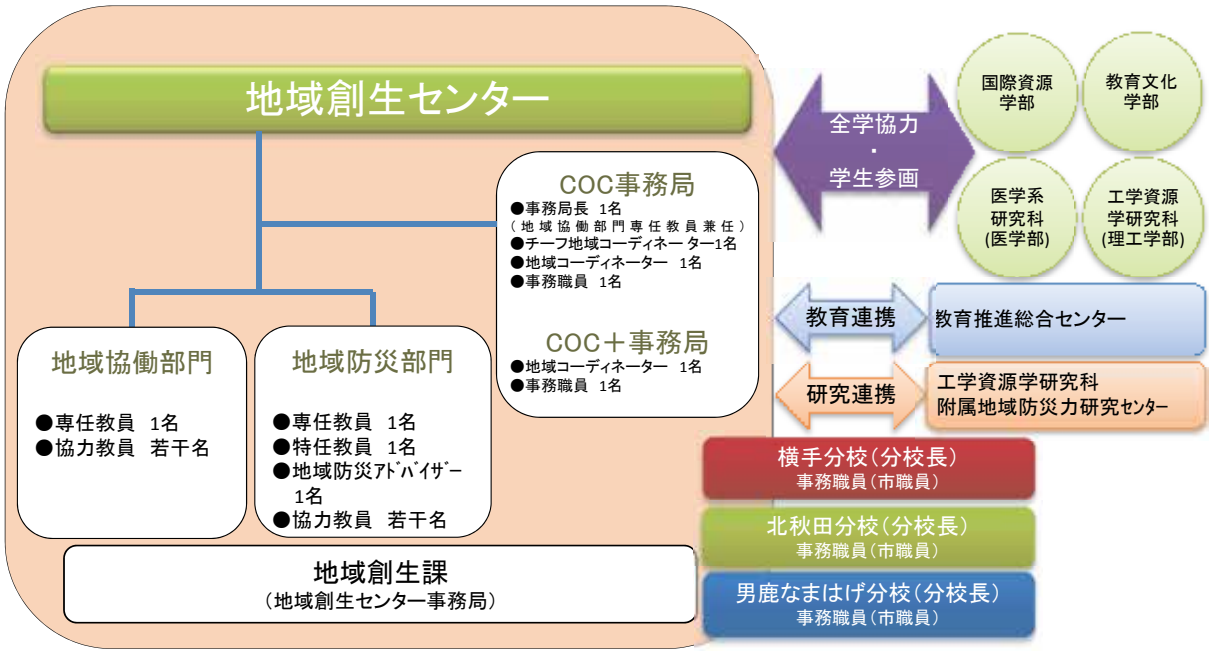
■設置目的

本センターは、地域と連携し、地域の活性化、教育活動、住民活動への助言等を行い、地域資源の発掘、地域づくりを担う人材の育成等を行うことを目的として設置が検討され、以下の沿革に示すとおり平成 23 年 4 月に設置された組織である。

本センターは、秋田大学の社会貢献活動の拠点となるとともに、同年 9 月には地域防災部門を設置し、地域貢献・地域連携に止まらず、地域防災に関する人材育成や自治体の防災施策に関する指導・助言を行うことも目的としている。

■沿　　革

平成 23 年 2 月	教育研究評議会において学内措置としてセンターの設置が了承
平成 23 年 4 月	センター発足　地域協働部門に専任教員（教授）1 名採用 大学本部棟に地域創生課を置き、センター長（兼任）、副センター長（地域協働部門専任教員）の体制でスタート
平成 23 年 9 月	秋田県からの寄附を原資として地域防災部門が設置され、専任教員（准教授）1 名採用　VBL 内に研究室を借用
平成 23 年 10 月	地域防災部門に専任教員（准教授）1 名採用 VBL 内に研究室を借用
平成 24 年 7 月	地域防災部門の研究室を教育文化学部 3 号館 111 室に移動
平成 25 年 8 月	文部科学省「地（知）の拠点整備事業（ＣＯＣ事業）」採択
平成 27 年 3 月	東北専門新聞連盟の「第 14 回『地域づくり』社会活動顕彰」を受ける
平成 27 年 9 月	文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋事業）」採択



センター長あいさつ

地域創生センター　センター長
川　東　雅　樹
（教育文化学部・教授）

平成 27 年度の地域創生センターの活動を本年報でご報告させていただきます。

当地域創生センターは，地域再生のための知の創生の見地から，地域と連携し，地域の活性化，教育活動，住民活動への助言，地域の防災等に関する研究と支援等を行い，地域の発展及び安全・安心な地域社会の形成に寄与することを目的としております。この目的を果たすためにセンターに配置された二つの部門，「地域協働部門」と「地域防災部門」がそれぞれの年度計画に沿って公開講座，出前講義，大学見学の受入などの大学開放事業のほか，地域に出向いた出張講演会や地域交流イベントの開催，地域行事への学生派遣支援など，多様の事業を実施しております。

昨年度に秋田大学分校も県内３校目が設置され，県南，県北，中央と秋田県全域をカバーできるようになりました。３分校体制となって丸１年が経過し，各分校の活動内容や，抱えている課題・地域からの要望にもそれぞれの地域の特徴が現れてきております。

またそれとは別に，地（知）の拠点整備事業（ＣＯＣ事業）が３年目となり，折り返し地点を迎えました。掲げられた３テーマの成果の達成を目指し，調査研究に取り組んでおります。一方，今年度秋には，平成 27 年度の文科省新規重点補助事業として，地（知）の拠点推進事業（ＣＯＣプラス事業）が採択されました。平成 31 年度までの事業です。ＣＯＣ事業を発展させ，地方公共団体や企業等と協働して，学生にとっての魅力ある就職先を創出・開拓するなど，地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を図ろうとするものです。県や商工団体など事業協働機関とともに，５年後には「学生の地元就職率 10%アップ」を目指します。

本来，大学が行う「地域への貢献」とは，自治体や行政が行う施策とは本質的に異なります。いうまでもなく行政には，地域の福祉と利益を図るという任務のため，小さからぬ権限と財源が与えられ，同時にまた堅実な成果を生むという責任が課されていますので，大学の立ち位置はこれとは別のところにあります。

「大学の地域貢献」がこれまでになく求められるようになりました。秋田大学としても文科省が要請する三つの大学像のうち「地域活性化の中核的拠点を目指す大学群」を選択しており，今後はその成果を評価されることになります。しかし，ここでの地域活性化とは，地域の諸課題を自治体同様に当事者となってその解決に当たるというものではなく，大学はいい意味で第三者たらざるを得ないと考えます。大学は地域に対して指示するところではなく，自由な思考のもとにアイディアとモデルを創造し，現実に対して可能なるものを提案する立場であり，その提案を判断し，実行に移すのはあくまでも「自立した」地域でなければなりません。現代の日本は，即効的に見える事業と時間的な成熟を顧慮しない変わり身の早さばかりにスポットが当たる風潮が見られますが，もともと大学が得意とするのは遠くを見ることであり，従って大学の考案するものが必ずしも地域の喫緊の要望に応えられるものでないことは十分あり得ることです。

地域に必要なのは，施策や計画をそのまま受け入れる姿勢ではなく，それを自らの現実感覚で研ぎ直し，提案者に投げ返す力であり，お仕着せのプランは跳ね返すくらいの気骨かも知れません。だとすれば，大学は地域に寄り添いつつも全く意想外の観点から地域を挑発する存在であるべきです。それに加えて，地域をフィールドとして学びを深め，現状を自分のこととして体験し，いずれは地域を活動の舞台にするであろう学生を育て，送り出すという長期的視野に立った貢献こそ目指すべきものでしょう。

結果として，地域に大学があるというステイタスと安心感，秋田大学があってよかった，と地域に感じてもらえるよう，今後も地道に励んでまいります。

平成 27 年度の活動実績

１. 地域協働部門

１．１　公開講座

開　講　数：４講座
総受講者数：１７０名

●事業内容

地域に開かれた大学づくりの一環として、秋田大学の持つ教育資源を広く市井に向けて提供することを目的に実施している。

実施講座

（１）資源リサイクルへの挑戦と玉川温泉の不思議を探る
～フィールドワーク：ラボ見学と玉川巡検～

実 施 日　平成 27 年 6 月 27 日（土）・28 日（日）
　　座学と野外観察の全 3 回
会　　場　秋田大学総合研究棟、玉川温泉（仙北市）
担当講師　秋田大学国際資源学部
　　資源開発環境コース　教授　　柴山敦
　　資源開発環境コース　教授　　石山大三
受講者数　27 名

秋田大学内での座学の後、玉川温泉へ出かけて温泉水の観察と定性分析実験することにより、玉川温泉の成因や地球化学的な特徴について理解を深めた。

（２）化学の力で限りある資源を有効活用！

実 施 日　平成 27 年 8 月 28 日（金）～9 月 25 日（金）　全 5 回
会　　場　カレッジプラザ
担当講師　秋田大学理工学部物質科学科教員 5 名
　　第1回　応用化学コース　教授　進藤隆世志
　　第2回　応用化学コース　教授　村上賢治
　　第3回　応用化学コース　教授　菅原勝康
　　第4回　応用化学コース　教授　後藤猛
　　第5回　応用化学コース　教授　寺境光俊

受講者数　20 名

化学技術を活かした天然資源の有効活用について、秋田大学で実施されている研究を実例として紹介しながら社会における化学技術の重要性と意義を解説した。

（３）北イングランドの文化Ⅱ　－英国ヨークシャーをめぐって－

実 施 日　平成 27 年 11 月 4 日（水）～12 月 2 日（水）　全 5 回
会　　場　カレッジプラザ
担当講師　秋田大学教育文化学部人間文化講座　准教授　大西洋一
受講者数　24 名

北イングランドの中心地域であるヨークシャーの産業、文化、自然の「魅力」と「現実」を確認しながら、写真や映像を通して、英国の「地方」に生きる「普通」の人々の姿について理解を深めた。

（４）サイコロジカル・カフェ

実 施 日　平成 27 年 11 月 17 日（火）～平成 27 年 12 月 15 日（火）　全 7 回
会　　場　カレッジプラザ
担当講師　秋田大学教育文化学部心理学領域担当教員7名
第1回　地域社会講座　特別教授　髙田知惠子
第2回　こども発達・特別支援講座　准教授　中野良樹
第3回　地域社会講座　准教授　北島正人
第4回　こども発達・特別支援講座　教授　森和彦
第5回　域社会講座　教授　柴田健
第6回　こども発達・特別支援講座　准教授　清水貴裕
第7回　地域社会講座　准教授　宮野素子
受講者数　のべ 170 名

心理学系教員 7 名がオムニバス形式で、最近の心理学の知見、研究、実験や技法について実演や実習を交えて紹介した。

１．２　自治体連携関係

●事業内容

秋田大学は「地域に根ざした大学」を目指し、連携協定を結ぶ県内の自治体において、社会貢献活動を展開している。

実施事業

（１）秋田大学地域交流朝市

実 施 日　平成 27 年 5 月 23 日（土）
　　平成 27 年 10 月 10 日（土）
会　　場　秋田大学インフォメーションセンター前広場
協力自治体　7自治体（北秋田市、男鹿市、潟上市、美郷町、横手市、
　　仙北市、東成瀬村）

秋田大学が連携協定を締結している 15 自治体のうち 7 自治体の協力を得て実施。各自治体の名産品や特産品を販売することで、大学と自治体との連携を深めるとともに、近隣住民が秋田大学へ気軽に足を運ぶ機会を設けることを目的とした事業である。

朝 8 時の開会前から多くの住民が訪れ、販売開始後は終了時間を待たずに商品が売り切れる自治体も見られるほどの盛況だった。本事業へは秋田大学生も多く参加し、郷土の伝統民族芸能や学生のサークル活動を披露したほか、学生が「地域協力サポーター」として、事前に自治体へ伺って学んできた製品知識を活かしながら販売を手伝った。

（２）能代七夕「天空の不夜城」への学生参加

実 施 日　平成 27 年 8 月 4 日（火）
会　　場　能代市役所周辺（市役所～昭南町 国道 101 号線）
参加学生　10 名

学生が地域行事に参加することにより、地域の歴史や伝統を知る機会とするとともに、若い力を活用することで行事を盛り上げ、地域活性化の一助となることを目的として、能代七夕「天空の不夜城」協議会事務局からの要望もあったことから、秋田大学生 10 名及び秋田市内の他大学生 3 名が天空の不夜城の引き手として参加した。

大型城郭灯籠「嘉六（17.6m）」と、高さ日本一の「愛季（24.1m）」を初めて見た学生たちは、その壮大さに圧倒されながらも、灯籠を引く時の「わっしょい、わっしょい」という大きな掛け声により、イベント最終日ということで賑わう会場を、さらに盛り上げていた。

また、笛と太鼓によるお囃子に合わせて踊る地域の人たちの中に混ざり、即席で一緒になって踊るなど、地元住民たちとの交流も積極的に行っていた。

（３）荒川鉱山跡地歴史保存活用事業

担　　当　秋田大学国際資源学部資源開発環境コース　教授　今井忠男（秋田鉱業史研究所長）
資源地球科学コース　教授　大場司
資源地球科学コース　講師　西川治
技術専門員　千田恵吾
秋田大学地域創生センター　地域協働部門長　濱田純
秋田大学地域創生課

平成26年3月に締結した「大仙市と国立大学法人秋田大学との荒川鉱山跡地の活用に関する覚書」に基づき、大仙市協和荒川地区にある荒川鉱山跡地を産業遺産として保存活用することを目的とした「『荒川の鉱山誌』発掘プロジェクト」を同市との協働事業として展開している。

平成27年度の事業としては、文化財として保存すべき選鉱場基礎とシックナー（沈殿池）、及びその周辺をドローン活用による空撮・写真測量等により、詳細な画像や三次元位置データを取得（平成27年4月空撮）し、測量データは文化財保護のため三次元デジタルアーカイブ化して保存することに成功した。これらの成果については、以下の講演会を開催し地域住民等に対して広く報告を行った。

◎「荒川鉱山誌」発掘プロジェクト講演会

日　時：平成 27 年 9 月 15 日（火）18:00～19:20

場　所：大仙市協和市民センター　和ピア

講　師：今井忠男教授（秋田大学国際資源学部）

「３次元測量画像の公開と選鉱技術のデジタル復元に向けて」

来場者：地域住民等約 100 名

なお、平成 28 年度には、製錬所跡に現存する煙突部分の周辺環境を整備したうえで現地調査することとしている。このプロジェクトでは、同鉱山で採用されていた選鉱システム並びに使用機器を解明することで、往時の選鉱場の様子を模型あるいはＣＧを用いて再現することを試みる計画である。

（４）秋田大学と美郷町との連携事業

「秋田大学音楽教育研究室学生によるコンサート」

実 施 日　平成 27 年 10 月 24 日（土）
会　　場　美郷町公民館ホール
担　　当　秋田大学教育文化学部教育実践講座　講師　石原慎司
　　秋田大学音楽教育研究室　学生 11 名

秋田大学は美郷町と「水」をテーマに連携協定を結んでいる。このコンサートは連携事業の一環として、同町のイベント「美郷フェスタ」の中で実施したもので、秋田大学生が美郷町で演奏するのは、平成 24 年度に美郷中学校合唱祭へゲストとして招かれ「水のコンサート」を開催してから 4 年目となる。

学生は音楽に関わっている美郷町内の小中学生を含む、来場した大勢の町民を前に、ピアノや声楽、サックスの美しい演奏と、「水」を意識した楽曲「川の流れのように」のフルートによる演奏など、アンコールもあわせて計 7 曲を披露し、イベントを大いに盛り上げた。

１．３　大学見学受入

受入団体数　３４団体
総見学者数　９９０名

●事業内容

大学という機関を知り、興味を深めてもらうことを目的に、小・中学校の「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育や、一般団体の大学見学など、各種ニーズに応じて秋田大学への訪問を受け入れている。

実施事業

（１）にかほ市立金浦中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 8 日(金)
内　　容　大学説明、模擬授業、学食体験
対 応 者　工学資源学研究科　教授　景山陽一
　　地域創生課職員
人　　数　45 名(2 年生)

（２）能代市立能代東中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 11 日(月)
内　　容　大学説明、鉱業博物館見学、学食体験、
　　施設見学、中央図書館見学、模擬授業
対 応 者　教育文化学部　准教授　清水貴裕
　　鉱業博物館サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　5 名(1 年生)

（３）能代市立能代第二中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 11 日(月)
内　　容　大学説明、中央図書館見学、模擬授業、施設見学、学食体験
対 応 者　教育文化学部　教授　佐々木和貴
　　地域創生課職員
人　　数　8 名(2 年生)

（４）八峰町立八森中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 12 日(火)
内　　容　大学説明、中央図書館見学、授業見学、
　　鉱業博物館見学、学食体験
対 応 者　国際資源学部　助教　TACKER, Jason
　　地域創生課職員
人　　数　2 名(2 年生)

（５）秋田県立大館鳳鳴高等学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 19 日(火)、10 月 17 日（土）
内　　容　SSH 研究室訪問
対 応 者　5 月 19 日：教育文化学部　教授　宇野力
　　教育文化学部　教授　浦野弘
　　教育文化学部　教授　志立正知
　　教育文化学部　准教授　佐々木信子
　　教育文化学部　准教授　清水貴裕
　　教育文化学部　准教授　山口祥司
　　教育文化学部　准教授　山名裕子
　　医学系研究科　教授　工藤俊輔
　　医学系研究科　准教授　若狭正彦
　　工学資源学研究科　教授　寺境光俊
　　工学資源学研究科　准教授　山口誠
　　工学資源学研究科　准教授　後藤文彦
　　工学資源学研究科　准教授　菅原透
　　10 月 17 日：工学資源学研究科　講師　小笠原正剛
人　　数　のべ 79 名(1～2 年生)

（６）三種町立八竜中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 20 日(水)
内　　容　大学説明、模擬授業、学食体験、施設見学、
　　中央図書館見学、鉱業博物館見学
対 応 者　教育文化学部　教授　佐々木雅子
　　地域創生課職員
人　　数　2 名(2 年生)

（７）大館市立下川沿中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 21 日(木)
内　　容　大学説明、鉱業博物館見学、学食体験、
　　研究室見学、中央図書館見学
対 応 者　教育文化学部　准教授　石井照久
　　鉱業博物館サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　16 名(2 年生)

（８）能代市立能代第一中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 26 日(火)
内　　容　大学説明、模擬授業、学食体験、
　　鉱業博物館見学、中央図書館見学、施設見学
対 応 者　地域創生センター　特任准教授　鎌滝孝信
　　地域創生課職員
人　　数　5 名(2 年生)

（９）能代市立常盤中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 26 日(火)
内　　容　大学説明、中央図書館見学、学食体験、
　　研究室見学、鉱業博物館見学
対 応 者　工学資源学研究科　教授　神谷修
　　地域創生課職員
人　　数　2 名(2 年生)

(10) 大仙市立大曲中学校

実 施 日　平成 27 年 5 月 29 日(金)
内　　容　大学説明、鉱業博物館見学、学食体験、
　　授業見学、中央図書館見学
対 応 者　国際資源学部　教授　渡辺寧
　　地域創生課職員
人　　数　51 名(3 年生)

(11) 大仙市立西仙北中学校

実 施 日　平成 27 年 7 月 1 日(水)
内　　容　大学説明、授業見学、中央図書館見学、
　　施設見学、学食体験
対 応 者　地域創生センター　教授　水田敏彦
　　地域創生課職員
人　　数　38 名(3 年生)

(12) 秋田市立将軍野中学校

実 施 日　平成 27 年 7 月 7 日(火)
内　　容　研究室訪問
対 応 者　教育文化学部　教授　柴田健
　　地域創生課職員
人　　数　3 名(2 年生)

(13) 秋田市立御所野学院中学校

実 施 日　平成 27 年 7 月 14 日(火)
内　　容　大学説明、教員との懇談、中央図書館見学、
　　模擬授業、学食体験
対 応 者　教育文化学部　教授　川東雅樹
　　教育文化学部　教授　林信太郎
　　中央図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　30 名(3 年生)

(14) 秋田市立明徳小学校

実 施 日　平成 27 年 7 月 21 日(火)
内　　容　施設見学、中央図書館見学
対 応 者　地域創生課職員
人　　数　8 名(2 年生)

(15) 大館市教育委員会教育研究所（子どもハローワーク）

実 施 日　平成 27 年 8 月 1 日(土)
内　　容　オープンキャンパス見学
対 応 者　地域創生課職員
人　　数　18 名(小学 5 年生～中学 3 年生)

(16) 横手市教育委員会（平成 27 年度横手市小学生職場見学ツアー）

実 施 日　平成 27 年 8 月 4 日(火)
内　　容　授業見学、大学説明、教員との交流、施設見学、
　　鉱業博物館見学、中央図書館見学、学食体験
対 応 者　非常勤講師　村上由則
　　国際資源学部　教授　渡辺寧
　　鉱業博物館サイエンスボランティア
人　　数　58 名(小学 1～6 年生)

(17) 秋田市立太平中学校

実 施 日　平成 27 年 8 月 19 日(水)
内　　容　施設見学、大学説明、研究室訪問
対 応 者　教育文化学部　教授　長澤光雄
　　地域創生課職員
人　　数　3 名(2 年生)

(18) かんば学童教室

実 施 日　平成 27 年 8 月 20 日(木)
内　　容　中央図書館見学、施設見学、学食体験、鉱業博物館見学
対 応 者　中央図書館職員
　　鉱業博物館職員、サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　17 名(小学 1～5 年生)

(19) 秋田県立秋田北高等学校

実 施 日　平成 27 年 8 月 25 日(火)
内　　容　大学説明、入試説明、研究室訪問（講義・実験）
対 応 者　工学資源学研究科　教授　尾高雅文
　　工学資源学研究科　教授　伊藤英晃
　　工学資源学研究科　准教授　山口留美子
　　工学資源学研究科　准教授　田中元志
　　工学資源学研究科　准教授　山本良之
　　工学資源学研究科　准教授　山口誠
　　工学資源学研究科　准教授　加藤純雄
　　工学資源学研究科　講師　小笠原正剛
　　地域創生課職員
人　　数　36 名(2 年生)

(20) 湯沢市立稲川中学校

実 施 日　平成 27 年 8 月 28 日(金)
内　　容　大学説明、模擬授業、中央図書館見学、学食体験
対 応 者　地域創生センター　教授　水田敏彦
　　地域創生課職員
人　　数　64 名(2 年生)

(21) 由利本荘市立西目中学校

実 施 日　平成 27 年 9 月 8 日(火)
内　　容　学食体験、中央図書館見学、施設見学、
　　大学説明、模擬授業
対 応 者　地域創生センター　准教授　濱田純
　　中央図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　30 名(1 年生)

(22) 秋田県立大館国際情報学院中学校

実 施 日　平成 27 年 9 月 9 日(水)
内　　容　大学説明、模擬授業、中央図書館見学、
　　施設見学、学食体験、鉱業博物館見学
対 応 者　教育文化学部　教授　宇野力
　　中央図書館職員
　　情報統括センター職員
　　鉱業博物館サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　41 名(2 年生)

(23) 秋田市立城南中学校

実 施 日　平成 27 年 9 月 17 日(木)
内　　容　中央図書館見学、施設見学、大学説明、学食体験
対 応 者　中央図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　6 名(2 年生)

(24) 秋田市立泉中学校

実 施 日　平成 27 年 10 月 15 日(木)～16 日(金)
内　　容　大学説明、教員との懇談、施設見学、
　　授業見学、職場体験、学生インタビュー
対 応 者　地域創生センター　准教授　濱田純
　　教育文化学部　講師　中澤俊輔
　　中央図書館職員
　　鉱業博物館職員
　　地域創生課職員
人　　数　3 名(1 年生)

(25) 湯沢市立湯沢南中学校

実 施 日　平成 27 年 10 月 26 日(月)
内　　容　大学説明、模擬授業、中央図書館見学
対 応 者　教育文化学部　教授　宇野力
　　中央図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　21 名(2 年生)

(26) 由利本荘市教育委員会由利教育学習課

実 施 日　平成 27 年 10 月 28 日(水)
内　　容　学食体験、施設見学、大学説明、
　　中央図書館見学、授業見学
対 応 者　工学資源学研究科　教授　河上肇
　　中央図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　34 名(一般)

(27) 仙北市立生保内中学校

実 施 日　平成 27 年 10 月 29 日(木)
内　　容　大学説明、授業見学、中央図書館見学、学食体験
対 応 者　教育文化学部　講師　中澤俊輔
　　中央図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　27 名(2 年生)

(28) 秋田県立角館高等学校

実 施 日　平成 27 年 11 月 9 日(月)
内　　容　大学説明、授業見学、中央図書館見学、
　　学食体験、鉱業博物館見学
対 応 者　国際資源学部　教授　今井忠男
　　国際交流センター　助教　平田未季
　　中央図書館職員
　　鉱業博物館サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　77 名(1 年生)

(29) 秋田県立秋田北鷹高等学校

実 施 日　平成 27 年 11 月 12 日(木)
内　　容　SSH 研究室訪問
対 応 者　教育文化学部　教授　川村教一
　　教育文化学部　教授　岩田吉弘
　　教育文化学部　准教授　石井照久
　　鉱業博物館サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　87 名(1 年生)

(30) 仙北市立角館中学校

実 施 日　平成 27 年 11 月 18 日(水)
内　　容　授業見学、施設見学、大学説明、
　　中央図書館見学、学食体験
対 応 者　教育文化学部　教授　石沢真貴
　　中央図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　31 名(3 年生)

(31) 秋田県立横手清陵学院中学校

実 施 日　平成 27 年 11 月 20 日(金)
内　　容　大学説明、授業見学、中央図書館見学、
　　施設見学、学食体験、鉱業博物館見学
対 応 者　教育文化学部　准教授　藤井慶博
　　中央図書館職員
　　情報統括センター職員
　　鉱業博物館サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　58 名(2 年生)

(32) 秋田市立外旭川中学校

実 施 日　平成 27 年 11 月 25 日(水)
内　　容　中央図書館見学、大学説明、施設見学
対 応 者　中央図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　26 名(2 年生)

(33) 秋田大学教育文化学部附属中学校

実 施 日　平成 27 年 12 月 1 日(火)～3 日(木)
内　　容　オリエンテーション、中央図書館見学、
　　鉱業博物館見学、職場体験、学食体験
対 応 者　地域創生センター　准教授　濱田純
　　教育文化学部技術部職員
　　中央図書館職員
　　大学生協職員
　　鉱業博物館職員、サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　23 名(1 年生)

(34) 秋田県立本荘高等学校

実 施 日　平成 28 年 1 月 7 日(木)
内　　容　研究室訪問（講義・実験）
対 応 者　工学資源学研究科　教授　伊藤英晃
　　工学資源学研究科　准教授　山口留美子
　　工学資源学研究科　准教授　田中元志
　　工学資源学研究科　准教授　山本良之
　　工学資源学研究科　准教授　山口誠
　　工学資源学研究科　准教授　加藤純雄
　　工学資源学研究科　講師　小笠原正剛
　　地域創生課職員
人　　数　36 名(2 年生)

１．４　地域創生センター主催事業

実施事業数：３件

●事業内容

　これまで見てきた各事業のほかにも、地域創生センターが主催して講演会等を実施している。

　中でも、「秋田大学子ども見学デー」は大学の法人化以降毎年度継続して実施しているイベントであり、参加者から好評を得ている。

●事業成果と課題

　「秋田大学子ども見学デー」は広報活動に力を入れた結果、参加希望者が500名を超え、全13コースに258名の参加があり、過去最大の規模となった。

　また、仙北市、能代市、大仙市の3か所で実施した「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」は、各地域の高校生を含む市民など計400名が参加した。質疑応答も含め、2時間という時間が短く感じるほど参加者の関心が高かった。

　今後も学外に秋田大学の持つ知的資源を還元していけるような事業を企画したい。

実施事業

（１）声楽入門講座「歌は人生を楽しくする～声の出し方，歌い方のヒント～」

①実 施 日　平成 27 年 6 月 13 日（土）
　会　　場　秋田大学 60 周年記念ホール
　受講者数　71名
②実 施 日　平成 27 年 6 月 20 日（土）
　会　　場　阿仁ふるさと文化センター
　受講者数　51名
③実 施 日　平成 27 年 7 月 4 日（土）
　会　　場　男鹿市民文化会館　小ホール
　受講者数　69名

　担当講師　秋田大学教育文化学部教育実践講座　准教授　爲我井壽一
　伴　　奏　浦恵美

　本講座は通常の公開講座とは趣向を変え，あえて「入門講座」とし，経験のない方でも気楽に受講できるような内容とした。また，秋田市のほか，北秋田市，男鹿市においてもそれぞれ一回ずつ開催し，

普段なかなか同様の機会に恵まれない住民へ，歌うことの素晴らしさに気づいていただくきっかけを提供することも狙いの一つとした。受講者からは「認知症予防にもこれから歌っていきたい」「先生の身振り、手振りでとても唄い易かった」などの感想が寄せられた。

（２）秋田大学子ども見学デー　～「ふしぎ」に向かって出発だ！～

実 施 日　平成 27 年 8 月 7 日（金）
会　　場　秋田大学
コ ー ス　・国際資源学部（1コース）
　　・教育文化学部（3コース）
　　・医学部（4コース）
　　・理工学部（2コース）
　　・情報統括センターコース
　　・ベンチャーインキュベーションセンターコース
　　・附属図書館コース
参加者数　258 名

小・中学生とその保護者を対象として、夏休みの間に大学内の見学や様々な体験を通して、大学に対する関心を深めてもらうことを目的として開催した。平成16年度から継続実施しており、今年度は112家族258名が参加した。参加者は60周年記念ホールにて行われた開会セレモニーの後、コース毎に学長と記念撮影を行い、13の見学コースに分かれて体験学習を行った。コース見学終了後、午後には自由参加のおもしろ科学実験教室が行われた。

（３）メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

医学や健康について、秋田大学の教員が分かりやすく解説する講演会。「高齢社会を明るく元気に生きる」をテーマに、仙北市、能代市、大仙市の 3 か所で開催した。

サイエンスカフェ・マスターの軽妙な進行のもと、各回とも 3 名の講師陣がそれぞれの専門分野から話題を提供した。意見交換の時間には、参加者から活発に質問が出された。

会場には飲み物と軽食を用意することで、カフェにいるような和やかな雰囲気を演出した。

①仙北市
日　　時　平成 27 年 7 月 14 日（火）15:00～17:00
会　　場　仙北市角館交流センター多目的ホール
担当講師　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座　教授　中村順子
　　秋田大学教育文化学部こども発達・特別支援講座　教授　森和彦
　　秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻　教授　水戸部一孝
サイエンスカフェ・マスター　秋田大学長　澤田賢一
参加者数　127 名

②能代市
日　　時　平成 27 年 10 月 20 日（火）15:00～17:00
会　　場　能代山本広域交流センター多目的ホール
担当講師　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座　教授　中村順子
　　秋田大学教育文化学部地域社会講座　特別教授　髙田知惠子
　　秋田大学大学院工学資源学研究科機械工学専攻　教授　巖見武裕
サイエンスカフェ・マスター　秋田大学大学院医学系研究科長・教授　伊藤宏
参加者数　156 名

③大仙市
日　　時　平成 27 年 12 月 22 日（火）14:00～16:00
会　　場　大仙市大曲交流センター講堂
担当講師　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座　教授　中村順子
　　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻基礎看護学講座　准教授　佐々木久長
　　秋田大学教育文化学部 地域社会講座　教授　柴田健
サイエンスカフェ・マスター　秋田大学大学院医学系研究科長・教授　伊藤宏
参加者数　117 名

平成 27 年度の活動実績

２. 地域防災部門

２．１　秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究

１）調査・研究

（１）秋田県の歴史地震に関する研究

実施期間　通年
場　　所　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田県で発生した歴史地震について、当時の被害調査報告書や地方新聞記事等から、秋田県内の被害分布や人的被害の発生状況、震災対応といった被害の実態を明らかにする研究を進めた。

（２）秋田市の地震動特性に関する研究

実施期間　通年
場　　所　秋田市（秋田大学）
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

特に秋田市における地震災害の防災・被害軽減化に貢献する、秋田大学手形キャンパスにおける地震観測を実施し、地震動特性について検討を行った。

（３）積雪寒冷地の地震災害危険度に関する研究

実施期間　通年
場　　所　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

豪雪地帯の積雪期（12 月～3 月）に発生した地震災害の調査・分析，また，横手市を中心に屋根雪による住宅振動特性の常時微動観測を実施した。

（４）秋田県沿岸地域における古地震・古津波防災に関する研究

実施期間　通年
場　　所　八峰町・男鹿市・潟上市・にかほ市など
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

八峰町，男鹿市，潟上市にて津波堆積物調査を実施し，過去の津波浸水履歴に関する検討を行った。この研究に関連して，11 月に潟上市で実施された COC フォーラム，1 月に福島市で実施された東北地域災害科学研究集会，3 月に盛岡市で開催された土木学会東北支部技術研究発表会および 3 月に潟上市で開催された市民向け講演会で成果を発表した。

（５）秋田県内の小学校およびその保護者の防災意識に関する研究

実施期間　通年
場　　所　秋田県沿岸部・内陸部
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

平成 25 年度および 26 年度に実施した小学生を対象としたアンケート調査の結果を再解析し，今後の防災教育内容に必要な項目を検討した。この研究成果は，11 月に潟上市で開催された COC フォーラムおよび 3 月に盛岡市で開催された土木学会東北支部技術研究発表会で発表した。

（６）秋田県における誘発地震等の研究

実施期間　通年
場　　所　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄

2011 年東北地方太平洋沖地震の巨大地震後の秋田県における地震を調査研究しているが，平成 27 年度においても続行した。主に気象庁発表のデータにより，日時における発生の変化を調べた。その結果，震源は県内陸北部では二ツ井方面から森吉山周辺へ移動し，県内陸南部では刈和野方面から角館周辺に移動している。マグニチュードはほぼ 2～3 くらいであり，深さもほぼ 5～7km におさまっている。海側では男鹿半島南に以前集中的にマグニチュードが 2～3 で発生しているのは注目される。引き続き注視する予定である。

（７）830 年天長地震の研究

実施期間　通年
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄

基本的な文献調査結果や秋田城復元状況等を考慮して，今年度は不確定な震源の推定の研究に集中した。主な方法としてはモデル地震の想定震度を算出し，被害状況との比較を行ったが，従来の指摘より震源は秋田市海岸南部に位置した可能性があることと，場合によっては北由利断層を考慮することの必要性を指摘した。

（８）地震伝承（言い伝え）と「聞き書き」手法研究

実施期間　通年
場　　所　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄

これまでの成果を踏まえ，平成 28 年 1 月 27 日午後，男鹿市戸賀加茂青砂の 1983 年日本海中部地震の津波体験者から聞き取り調査を 2 時間超実施した。小型船での津波体験や救助等の様子の貴重な体験が克明に述べられた。これらは全て録音され，1 月 30 日に COC 主催「聞き書きボランティア養成講座」で 1983 年日本海中部地震基礎講座と同時に披露され，「聞き書き」が実践された。

（９）緊急地震速報の実践的研究

実施期間　通年
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄

平成 24 年から重要性と興味から観測等を継続しているが，研究室の移転などがあって，自宅観測が専らとなった。

5 月 13 日 6:13 頃宮城県沖（M6.8，深さ 48km，最大震度 5 強）発生，自宅計器作動し画面で震央が分かり，遠距離のため余裕をもって対応できた。秋田市山王：震度 3 となった。

7 月 10 日 3:36 頃岩手県沿岸北部（M5.8，深さ約 90km，最大震度 5 弱）発生，自宅計器作動。これも遠距離のため余裕で対応できた。しかし秋田市山王では震度 2 と発表された。これ以外に該当地震は無かった。

２）学会等での発表

（１）世界地震工学及び地震学国際会議への参加・発表

実 施 日　平成 27 年 5 月 12 日（火）～16 日（土）
場　　所　ドイツ連邦共和国ほか
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

「世界地震工学及び地震学国際会議」に参加し，「Study of the Wooden Houses Damage Related to Ground Motion Characteristics due to the 1914 Akita-Senboku Earthquake in Japan -Comparison Between Collapses Rate of Houses and Predominant Period of H/V Spectral Ratio of Microtremors-」と題して発表を行った。

（２）日本第四紀学会大会での発表

実 施 日　平成 27 年 8 月 29 日（土）～30 日（日）
場　　所　東京都
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

早稲田大学で開催された日本第四紀学会 2015 年大会に参加し，発表を行った。

（３）日本建築学会での発表および情報収集

実 施 日　平成 27 年 9 月 4 日（金）～5 日（土）
場　　所　神奈川県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

日本建築学会大会にて、発表を行うとともに、防災に関する情報収集を行った。

（４）歴史地震研究会での発表および北丹後地震情報収集

実 施 日　平成 27 年 9 月 18 日（金）～24 日（木）
場　　所　京都府，兵庫県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

歴史地震研究会での発表を行うとともに，北丹後地震に関する情報収集を行った。

（５）東北地域災害科学研究集会での発表

実 施 日　平成 28 年 1 月 8 日（金）～9 日（土）
場　　所　福島県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
　　准教授　鎌滝孝信

平成 27 年度東北地域災害科学研究集会へ参加し，水田・鎌滝両名が発表を行った。

（６）土木学会東北支部における発表

実 施 日　平成 28 年 3 月 5 日（土）
場　　所　岩手県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

岩手大学で行われた平成 27 年度土木学会東北支部技術研究発表会にて、COC 事業で取り組む研究の成果について発表を行った。

２．２　防災について地域で活動できる人材の育成

事業数：48 回
（講演会等 19 回、出前授業 29 回）
参加者：6,956 名
（講演会等 1,047 名、出前授業 5,909 名）

●事業内容

県内幼・保・小・中・高等学校における出前授業においては、防災教育は早い段階からの意識啓発が重要であることから、講義に加え、建物倒壊実験および津波発生実験を行うことにより理論の把握を促した。また、自主防災組織を対象とした講義では、発災時に自主防災組織リーダーあるいは町内会が取るべき行動と、地域住民における日頃からの防災意識の喚起、避難所運営の際の注意点などを述べた。

●事業成果と課題

年度内 48 回の実施により、約 7,000 名の受講者となった。また、センター主催事業として防災巡検「秋田県で発生した地震の歴史を探る～防災意識を高めよう～」を実施。県内に存在する地震痕跡や活断層へ足を運び観察することで、かつて本県で大きな地震が発生したという歴史を学び、今後の地震災害へ備えるという防災意識の高揚を促すことができた。今後もこのような研究内容を活かした秋田大学ならではの講座を実施していきたい。

実施講座

１）講演会等

（１）「由利本荘市西部地区自主防災組織連絡協議会」防災講演会

実 施 日　平成 27 年 6 月 17 日（水）
場　　所　秋田市（秋田大学）
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　35 名

由利本荘市西部地区自主防災組織連絡協議会に所属する同市の住民が秋田大学を訪れ，「地震」と「噴火」に関する防災をテーマとした防災研修会を行った。地震のテーマを担当した鎌滝准教授は，秋田県地震被害想定調査や，津波堆積物により地震痕跡を明らかにする調査の紹介を交えながら，日本海側の地震・津波被害について概説。地震が発生する周期などに注意しながら，もしもの時に備えておくことの重要性を伝えた。

（２）ＮＰＯ法人地学オリンピック日本委員会「フューチャー・アース・スクール」講義

実 施 日　平成 27 年 8 月 15 日（土）
場　　所　東京都
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　6 名

NPO 法人地学オリンピック日本委員会が東京学芸大学附属高等学校にて実施した「フューチャー・アース・スクール」で，中・高生に「堆積物から読み解く過去の巨大地震」と題して，堆積学に関する講義をおこなった。

（３）本荘地域町内会長協議会「視察研修会」防災講演

実 施 日　平成 27 年 9 月 15 日（火）
場　　所　秋田市（秋田大学）
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　43 名

自主防災について考えることを目的とした視察研修会。鎌滝准教授は，津波痕跡や活断層の分布の観点から，秋田県，そして由利本荘地域における地震防災について言及した。地震が「どこで」，「どれくらいの大きさで」発生するかということに比べ，それが「いつ」起こるかを知ることは簡単ではないとして，津波への警戒心も持ちながら日々備えておくことの重要性について解説した。

（４）羽後町住民避難訓練　防災講演

実 施 日　平成 27 年 10 月 7 日（水）
場　　所　羽後町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　250 名

羽後町住民避難訓練に参加し，羽後町周辺で過去に発生した被害地震について紹介し，このような地震災害から地域と家族を守る為の方策について説明した。

（５）「秋田大学　地（知）の拠点整備事業 フォーラム 2015in 潟上」事業報告

実 施 日　平成 27 年 11 月 24 日（火）
場　　所　潟上市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　111 名

鎌滝准教授はフォーラム後半で，「広い低平地の津波対策」に関するこれまでの取り組みを報告。過去に潟上市を襲った津波の痕跡調査や，市民の防災意識の研究についてその成果を紹介した。

（６）「水質保全活動に関する研修会・住民交流会」防災講演

実 施 日　平成 27 年 12 月 20 日（日）
場　　所　潟上市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　40 名

潟上市周辺で発生した過去の被害地震，秋田県の最新の地震被害想定，これら地震災害から地域と家族を守る為の方策について説明した。

（７）平成 27 年度秋田大学防災講座
「東日本大震災から 5 年～これからの秋田県の地震防災を考える～」

実 施 日　平成 28 年 2 月 28 日（土）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
准教授　鎌滝孝信
地域防災アドバイザー　野越三雄
事務職員　本多壮一郎
参加者数　29 名

東日本大震災が発生してから 5 年の節目を迎え，地域防災部門ではこれを契機として，震災について振り返るとともに秋田県における地震防災を改めて考えることを目的に，市民向けの防災講座を開催した。
講義①「東日本大震災とは何だったのか？－最近の研究成果と秋田への影響－」（野越三雄）
講義②「過去に発生してきた地震について学び，今後の津波防災を考える」（鎌滝孝信）
講義③「秋田の備え－地震防災マップを理解する－」（水田敏彦）
また，この講座にあわせて秋田大学手形キャンパスでパネル展を実施。震災当時の写真や秋田県で過去に発生した地震についての概要などを展示し，学内外の方へ向けて防災意識の啓発を図った。

（８）「秋田県自主防災アドバイザーフォローアップ研修兼養成研修」講演

実 施 日　平成 28 年 3 月 2 日（水）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　14 名

秋田県が委嘱する自主防災アドバイザーおよび新規にアドバイザーとなる方々を対象に講演を行った。鎌滝准教授は参加者に向け，過去の地震を知り将来に備えることや家庭で防災の取り組みを行うことの重要性について説明した。

（９）「潟上市の津波防災について考える：東日本大震災から 5 年を経て」講演

実 施 日　平成 28 年 3 月 26 日（土）
場　　所　潟上市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　50 名

秋田大学大学院工学資源学研究科附属地域防災力研究センター・地域創生センターの主催により実施。
地域防災力研究センター長の松冨英夫教授，大学院工学資源学研究科の渡邉一也講師，地域創生センターの鎌滝孝信准教授が，潟上市における津波防災をテーマに講演した。

(10) 秋田・市民のメディア研究会主催市民公開講座
「東日本大震災から 5 年～はたして秋田県は～」講演

実 施 日　平成 28 年 3 月 28 日（月）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄
参加者数　10 名

東日本大震災から 5 年が経ったことを機に今一度当時を思い出し，地震について正しい知識を身に付けることを目的に企画された講座。野越地域防災アドバイザーは地震学の基礎や東日本大震災の発生メカニズム，秋田県の地震環境について解説した。

(11)「自主防災組織育成指導者研修会」講演

実 施 日　平成 27 年 11 月 16 日（月）、11 月 18 日（水）、11 月 24 日（火）、11 月 25 日（水）、
12 月 2 日（水）、12 月 3 日（木）、12 月 11 日（金）
平成 28 年　1 月 26 日（火）、1 月 28 日（木）
場　　所　由利本荘市、秋田市、能代市、鹿角市、美郷町、男鹿市、湯沢市、羽後町、大仙市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
准教授　鎌滝孝信
地域防災アドバイザー　野越三雄

全 9 会場　参加者数　459 名

県内各市町村の町内会長，自主防災組織の長等を対象とした「平成 27 年度自主防災組織育成指導者研修会（主催：秋田県）」で，水田地域防災部門長，鎌滝准教授，野越地域防災アドバイザーは，地震や津波の基礎的な事項に関する解説に加え，自主防災組織に期待されている役割や，自助の大切さ等について説明した。

2）出前授業

（1）「防災教育外部指導者派遣事業」出前授業

＜実施校＞

秋田太陽幼稚園・ベビー園	6 月 25 日	ウェルビューいずみこども園	10 月 20 日
由利本荘市立大内中学校	7 月　8 日	秋田県立横手清陵学院高等学校	10 月 21 日
むつみ保育園	7 月　9 日	秋田県立大曲高等学校	10 月 28 日
仙北市立西明寺小学校	7 月 15 日	横手市立横手南小学校	11 月 10 日
秋田市立城南中学校	7 月 16 日	秋田県立二ツ井高等学校	11 月 11 日
認定こども園しゃろーむ	8 月　4 日	矢島教育研究会	11 月 13 日
出戸こども園	8 月　5 日	秋田県立秋田中央高等学校	11 月 19 日
秋田市立中通小学校	8 月 27 日	秋田県立横手高等学校定時制課程	11 月 26 日
秋田市立土崎南小学校	9 月　3 日	相愛保育園	12 月　2 日
若美南保育園	10 月　8 日	旭川幼稚園	12 月 16 日

担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
准教授　鎌滝孝信

全 20 校　参加者数　4,813 名

秋田県教育庁が主催する事業。県内の幼・保・小・中・高等学校において出前授業、防災訓練指導等を実施し、今後災害が発生した場合においても、正しい知識を持ち避難ができる児童・生徒を育てることを目的とした。

（２）能代第一中学校大学訪問時 模擬授業

実 施 日　平成 27 年 5 月 26 日（火）
場　　所　秋田市（秋田大学）
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　5 名

大学見学に訪れた能代第一中学校の生徒への模擬授業を実施。災害の定義から始まり，地震や津波に関する基本的な知識，そして過去に秋田県で発生した地震・津波被害について概説した。

（３）仙南小学校　出前授業

実 施 日　平成 27 年 5 月 28 日（木）
場　　所　美郷町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
准教授　鎌滝孝信
参加者数　340 名

同校の 3～6 年生を対象に，「地震から命を守るために～1896 年に発生した陸羽地震を教訓として～」のテーマで実施。鎌滝准教授が地震と活断層について，水田教授が陸羽地震の被害と地震防災についてそれぞれ解説した。

過去に美郷町周辺で発生した陸羽地震を教訓に，これからも大きな被害をもたらす地震は起こる可能性があること，いざという時，自分の身は自分で守るという気持ちが大事であることを伝え，生徒たちの防災意識の高揚を促した。

（４）美郷中学校　出前授業

実 施 日　平成 27 年 5 月 28 日（木）
場　　所　美郷町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
准教授　鎌滝孝信
参加者数　500 名

全校生徒約 500 名を対象に，「地震から命を守るために～1896 年に発生した陸羽地震を教訓として～」のテーマで実施。美郷町においては南北に縦断する活断層が存在することから，繰り返し地震が発生する可能性があることや，陸羽地震について当時の写真を交えながらその被害状況などを紹介した。

（５）西仙北中学校大学訪問時　講義見学

実 施 日　平成 27 年 7 月 1 日（水）
場　　所　秋田市（秋田大学）
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　38 名

大学見学に訪れた西仙北中学校の生徒が，水田教授の講義「防災学基礎Ⅱ－地域防災学入門－」を見学した。約 20 分の時間であったが，水田教授は約 100 年前に生徒たちの地元で発生した 1914 年秋田仙北地震の概要などについて説明した。

（６）秋田大学地域創生センター主催「秋田県で発生した地震の歴史を探る～防災意識を高めよう～」

実 施 日　平成 27 年 8 月 8 日（土），10 月 3 日（土）
場　　所　にかほ市，美郷町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
　　准教授　鎌滝孝信
参加者数　のべ 40 名

秋田県内に存在する過去の地震痕跡を観察することにより，参加者の防災意識の高揚を促すことを目的に企画した事業。初開催となる今年度は，第 1 回目：にかほ市九十九島，第 2 回目：美郷町千屋断層をそれぞれ会場に実施した。小中学生およびその保護者のべ 40 名が参加。講義，野外観察のほか，クイズ等のレクリエーションを通して，かつて本県で大きな地震が発生したという歴史を学ぶとともに，今後の地震災害へ備えるという気持ちを新たにする機会となった。また，本事業には本学学生が運営スタッフとして参加し，学生にとっても本学が取り組む防災事業を知る良い機会にもなった。

（７）稲川中学校大学訪問時　模擬授業

実 施 日　平成 27 年 8 月 28 日（金）
場　　所　秋田市（秋田大学）
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　64 名

大学見学に訪れた稲川中学校の生徒への模擬授業を実施。阪神・淡路大震災や過去に秋田県南部で起こった大型地震を例に挙げ，実際に映像を見せながら当時の様子を説明した。また，耐震構造の有無による家屋の耐震強度の違いや，耐震構造の組まれている箇所によって地震が発生した際の揺れ方がどのように異なるかなどの説明を，模型を使用して分かりやすく解説した。

（８）能代市立第四小学校　出前授業

実 施 日　平成 27 年 9 月 10 日（木）
場　　所　能代市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　96 名

「『地震』や『津波』から『命』を守ろう！」をテーマに実施。地震・津波が発生する仕組みについての解説や実験を交えながら，日本は世界的に見ても地震が多い国であること，地震発生時に備えて普段から身の回りの危険因子などを確認しておく必要があること，そして自分の命は自分で守るという意識が重要であることなどを述べた。

（９）秋田大学地域創生センター主催「地域を知ろう！災害を知ろう！～自分たちの住む町を知るための防災教室～桜・大平台地区　防災マップ作成」

実 施 日　平成 27 年 11 月 29 日（土）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　13 名

この事業は，現在各小学校で行われている防災教育が座学中心であることから，児童が，地震災害が発生した時に危険となる箇所や避難する際に注意することなどを前もって予測しておくことで，地震災害が発生した時でも児童自らが道路上に潜む危険性を把握し，最も安全なルートを自分達で考え，避難することができるようになることを目的としたものである。2 回目となる今年度は，秋田市桜・大平台地区で実施した。当該地区に住む児童 13 名が参加し，桜小学校に隣接する桜児童センターからそれぞれの自宅周辺までの危険箇所等を調べ，防災マップを作成した。完成したマップは，児童センターの他，桜小学校の参観日にあわせて校内にも掲示した。

２．３　県および市町村への防災施策に関する指導・助言

指導助言を行った自治体：３自治体
（秋田県，潟上市，横手市）

●事業内容

県内各自治体における各種委員会等へ委員として参画し，学術的見地からの指導・助言を行った。

●事業成果と課題

各自治体における防災計画から学校における防災教育推進まで，多岐に渡るテーマについて，専門的見地から指導・助言を行った。また，秋田県が実施する市町村未来づくり協働プログラム事業においては潟上市でのプロジェクトへ参画し，自治体の災害対応力を醸成することにも寄与できた。

委員会参画

（１）秋田県再生可能エネルギー等導入推進臨時対策事業評価委員会

任　　期　通年
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田県の公共施設や地域の防災拠点について，再生可能エネルギー等の導入を推進するために必要な助言及び検討を行った。

（２）横手市伝統的建造物群保存地区防災計画策定委員会

任　　期　平成 26 年 7 月～平成 28 年 7 月
所　　管　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

横手市増田伝統的建造物群保存地区における保存対策（防災計画策定）調査の実施及びこれに基づく防災計画の策定を推進するために必要な助言及び検討を行った。

（３）秋田県学校安全推進委員会

任　　期　通年
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

学校安全教育に占める防災領域の部分について，幼児児童生徒の安全を確保する事業の方向性や実施内容を確認・検討することにより実効性のある安全教育を推進するための検討を行った。

（４）秋田県ジオパーク連絡協議会研究統括委員会

任　　期　平成 27 年 5 月～平成 29 年 3 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

秋田県内ジオパークで抱える学術的専門課題に関する助言および連絡協議会で実施する研究助成事業の審査等を行った。

（５）秋田県津波浸水想定調査委員会

任　　期　平成 27 年 5 月～平成 28 年 3 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

本県における最大の津波浸水想定を設定するため，国と県とがそれぞれ実施した津波浸水想定調査の比較・検討を行った。

（６）秋田県国民保護協議会

任　　期　平成 27 年 7 月～平成 29 年 6 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田県国民保護協議会において，専門的見地から必要な助言を行った。

（７）秋田県沿岸検討委員会

任　　期　平成 27 年 12 月～平成 28 年 3 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

海岸保全に関する基本的な方針および計画の策定等の検討事項に対して，専門的見地から技術的助言を行った。

（８）秋田県事前通行規制区間見直し検討委員会

任　　期　平成 28 年 2 月～平成 29 年 3 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田県内における事前通行規制区間について，規制基準および規制区間等の見直しに関する助言を行った。

（９）秋田県市町村未来づくり協働プログラム（潟上市）事業計画

任　　期　平成 28 年 2 月～平成 28 年 3 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

地域課題の解決や地域の活性化につながることを目的に秋田県と潟上市とが協働で取り組むプロジェクトにおいて，防災の観点から指導・助言を行った。

参考資料

【平成27年度　地域創生センター運営委員】

番号	職　　名		氏　　名	任　　期	備考
1	委員長	理事・副学長 （教育・学生・入試担当）	四反田　素　幸	規程第3条第1号 在任期間	
2	運営委員	地域創生センター長	川　東　雅　樹	規程第3条第2号 在任期間	
3		国際資源学部　教授	縄　田　浩　志	規程第3条第3号 平成27年4月1日～平成29年3月31日	
4		教育文化学部　教授	篠　原　秀　一	規程第3条第3号 平成27年4月1日～平成29年3月31日	
5		医学系研究科　教授	中　村　順　子	規程第3条第3号 平成27年4月1日～平成29年3月31日	
6		工学資源学研究科　教授	神　谷　　修	規程第3条第3号 平成27年4月1日～平成29年3月31日	
7		横手分校長	根　岸　　均	規程第3条第4号 平成27年4月1日～平成29年3月31日	
8		男鹿なまはげ分校長	茂　木　　優	規程第3条第4号 平成26年4月1日～平成28年3月31日	
9		地域創生センター 専任教員 北秋田分校長	濱　田　　純	規程第3条第5号 平成27年4月1日～平成29年3月31日	
10		地域創生センター 専任教員	水　田　敏　彦	規程第3条第5号 平成27年4月1日～平成29年3月31日	
11		地域創生センター 特任教員	鎌　滝　孝　信	規程第3条第5号 平成27年4月1日～平成29年3月31日	

【地域創生課】

職　　名	氏　　名	備考
地域創生課長	高　橋　紀　夫	
地域協働部門主査	手　賀　直　矢	
地域協働部門主査	大日向　俊一郎	
地域協働部門	京　　直　恵	
地域協働部門	能　美　　徹	
地域防災部門	本　多　壮一郎	
地域防災部門	板　波　ひとみ	
総務	鈴　木　智　子	

【地域創生センター（COC事務局）】

職　　名	氏　　名	備考
チーフ地域コーディネーター	田　口　　公　夫	
地域コーディネーター	藤　井　　孝　志	
事務系補佐員	山　影　　あゆみ	

【地域創生センター（COC＋事務局）】

職　　名	氏　　名	備　考
地域コーディネーター	西　村　　修	
事務系補佐員	小野寺　仁　美	

平成27年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成27年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成27年度
メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト in 大仙市
高齢社会を明るく元気に生きる

日時：平成２７年１２月２２日（火）
１４時００分～１６時００分（開場１３時３０分）参加無料
場所：大仙市大曲交流センター講堂
（大仙市大曲日の出町２丁目７番５３号）
対象：どなたでも（定員：１００名　要事前申込）
申込：電話、ＦＡＸ、Ｅmail でお申込みください。
①氏名　②年齢　③電話番号をお知らせください。

お申込み先
大仙市企画部総合政策課
TEL　0187-63-1111（内線 228，229）
FAX　0187-63-1119
メール sougou@city.daisen.akita.jp

●サイエンスカフェ・マスター（進行）●
医学部長　伊藤 宏

話題提供者

秋田大学医学部　保健学科 地域・老年看護学講座　教授 中村　順子　「最後まで自分らしく生きる・暮らす ―元気なときも 介護が必要になっても―」

秋田大学医学部　保健学科 基礎看護学講座　准教授 佐々木　久長　「心を豊かにするコツ ～もっとおだやかに、よりいきいきと～」

秋田大学教育文化学部 地域社会講座　教授 柴田　健　「希望の心理学 ～明るい未来の作り方～」

メディカル・サイエンスカフェ・ネクストって何？

医学や健康について、秋田大学の教員が市民の皆様に分かりやすく解説する公開講演会＋自由に意見交換をする場、それが「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」です。お飲み物・軽食を楽しみながらカフェのようなくつろいだ雰囲気でご参加いただけますので、お気軽にお申し込みください。
当日は「高齢社会を明るく元気に生きる」ためのヒントを、３名の教員がそれぞれの専門の立場からお話しします。
ご年配の方はもちろん、看護に興味がある方、ご両親やご祖父母に元気に過ごしてほしい方など、幅広い年代からのご参加をお待ちしております。

※H27.7.14 に開催された仙北市の様子

秋田大学
お問い合わせ
地域創生課　〒010-8502　秋田市手形学園町 1-1
TEL：018-889-3201
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp
共催　秋田大学地域創生センター　大仙市

【 秋田大学子ども見学デー 内容 】

集合場所　秋田大学６０周年記念ホール（手形キャンパス）
対　　象　小学生（保護者と一緒）
人　　数　２７０名程度
プログラム
９：００～　９：３０　受付
９：３０～１０：３０　開会式　学長との記念撮影
１０：３０～１２：００　希望コース別に大学内見学・体験
１２：００～１３：００　昼食タイム（大学内食堂もご利用いただけます）
１３：００～１５：００　おもしろ科学実験教室（自由参加）
○発泡スチロールでスタンプつくり
○秋田県産けいそう土を使った実験など

好評につき今年も開催します！

お申込み方法
Ⓐ 大学ホームページの申込専用フォーム
※ご家族単位でお申し込み下さい。
Ⓑ 郵便はがき、ＦＡＸ、メール
※①～⑥を忘れずに記入の上、お申し込み下さい。
①希望コース※第③希望まで　②氏名（保護者・子ども）
③子どもの学校名・学年　④郵便番号・住所
⑤電話番号　⑥大学内駐車場利用希望の有無

【申込期限】　７月１７日（金）※当日必着

※予定人数を超えた場合は抽選となります。当選者は７月下旬に案内を発送し発表とします。
※大学内駐車場には限りがございます。希望に添えないこともありますのであらかじめご了承願います。
※お申し込み状況や抽選結果に関してのお問い合わせにはお答えいたしかねます。
※個人情報は、当イベントのみに使用いたします。

秋田大学 子ども見学デー

平成２７年　～「ふしぎ」に向かって出発だ！～
８月７日（金）　午前：希望コース別見学・体験　午後：おもしろ科学実験教室（自由参加）
参加費無料
※こども見学デーは参加申込が必要です。実験教室は見学デー参加者が対象です。

秋田大学　地域創生課　〒010-8502　秋田市手形学園町１番１号　☎:018-889-2270　🖷:018-889-3162
✉:shakoken@jimu.akita-u.ac.jp　秋田大学 HP　http://www.akita-u.ac.jp/　子ども見学デー　サイト内検索

市民の皆さんを対象に、声楽入門講座を開催します。
『歌うことが好き!』という方ならどなたでもご参加いただけます。
『経験がない。上手に歌えない。』という方も是非この機会に、歌うことの楽しさを体感してみませんか？
声楽を専門とする秋田大学教育文化学部の爲我井壽一准教授が、“のびのびと声を出し、歌うことを楽しむヒント”を教えます。
また、今回は、秋田市以外の2会場でも開催します。
お近くの会場で受講いただけますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

声楽入門講座
歌は人生を楽しくする
～声の出し方、歌い方のヒント～

第一回
開催日　平成27年6月13日土
会　場　秋田大学６０周年記念ホール

第二回
開催日　平成27年6月20日土
会　場　阿仁ふるさと文化センター

第三回
開催日　平成27年7月4日土
会　場　男鹿市民文化会館　小ホール

13：30～15：30（13：00 開場）
※各会場とも講座内容は同じです

講　師　秋田大学教育文化学部教育実践講座
爲我井　壽一　准教授
伴　奏　浦　恵美

定　員　１００名
受講料　無　料
申　込　どなたでも

■予定曲
・ふるさと　・浜辺の歌
・秋田県民歌 など

※当日のお申込みも受け付けておりますが、参加人数把握の都合上出来れば事前のお申込みをお願いします。（お名前のみ）

秋田大学
お問い合わせ
地域創生課　〒010-8502　秋田市手形学園町 1-1
TEL：018-889-2270　FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp
主催　秋田大学地域創生センター
協力　北秋田市　男鹿市

平成２７年度　秋田大学公開講座

資源リサイクルへの挑戦と玉川温泉の不思議を探る
～フィールドワーク：ラボ見学と玉川巡検～

本講座は、鉱物資源をキーワードに、世界の資源情勢から最新の資源生産・分離技術を学び、リサイクルの必要性を考えます。一方、資源環境学の立場から秋田県の玉川温泉に着目し、玉川温泉の成因や地球化学的な特徴、その不思議な世界を座学、巡検を交えて学びます。

開催日　平成 27 年 6 月 27 日（土）～28 日（日）
時　間　27 日（土）13：00～17：00
28 日（日）　8：30～17：00
場　所　秋田大学総合研究棟１階 多目的共用講義室
仙北市　玉川温泉
（バスで移動します）
対　象　どなたでも
定　員　２５名
受講料　1,500 円

小雨決行
※雨天対策が必要です。雨具・カッパなどを持参してください。

申込締切　平成 27 年 6 月 23 日（火）

講座の２日目は、日帰りで玉川温泉に出かけ、温泉水の観察と定性分析実験を行います。野外で活動ができるような長袖・長ズボン、運動靴でご参加ください。また、座食・飲み物等はあらかじめご用意ください。

講　師
国際資源学部 国際資源学科 資源開発環境コース
教　授　柴山 敦
教　授　石山 大三

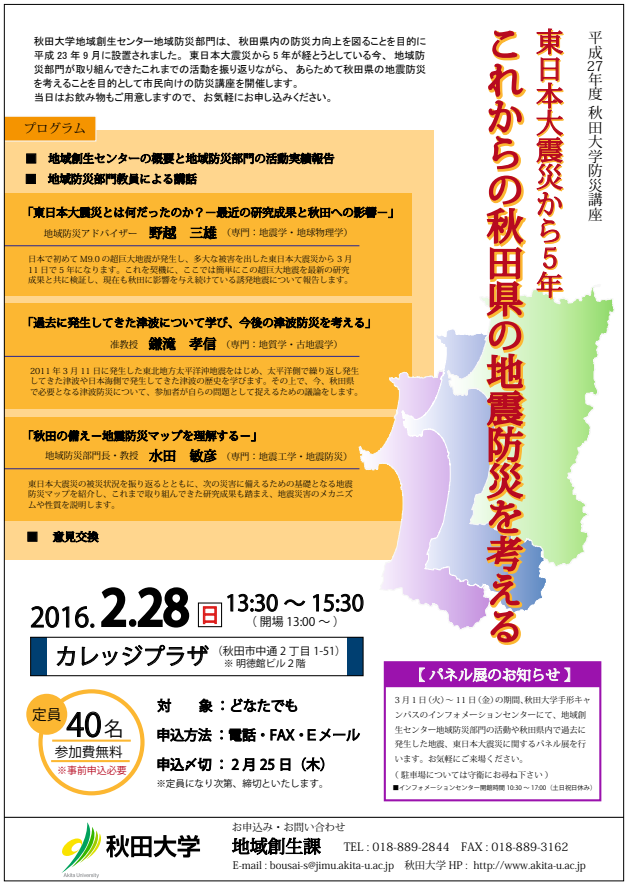
スケジュール

27日(土) 13:00 ～ 17:00	会　場	秋田大学総合研究棟１階　多目的共用講義室
	13:00 ～ 15:00 講義	「資源は本当になくなる？資源生産から見たリサイクルの必要性と課題」
	15:00 ～ 17:00 講義	「地球の恵み 温泉の科学」
28日(日) 8:30 ～ 17:00	集　所	仙北市　玉川温泉
	11:00 ～ 14:30（玉川温泉での見学時間）	「玉川の不思議を探る 玉川巡検」

秋田大学
お申込み・お問い合わせ
地域創生課　TEL：018-889-2270　FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp　秋田大学 HP：http://www.akita-u.ac.jp

平成27年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成27年度社会貢献事業ポスター（一部）



巻末に当たり、平成 27 年度の社会貢献事業に御協力いただきました県内自治体、関係機関及び本学内教職員の皆様には心から感謝申し上げます。

今後とも引き続き本学の社会貢献活動にお力添えくださいますようよろしくお願い申し上げます。

Akita University

平成27年度　秋田大学地域創生センター年報
秋田大学地域創生センター　編集・発行

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1番1号
TEL：018-889-2270
FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp